
群馬県青少年赤十字の 現状と課題



日本赤十字社群馬県支部

青少年赤十字の現状（令和2年度）

群馬県の加盟率 94.7%（全国2位）

加盟校 556校

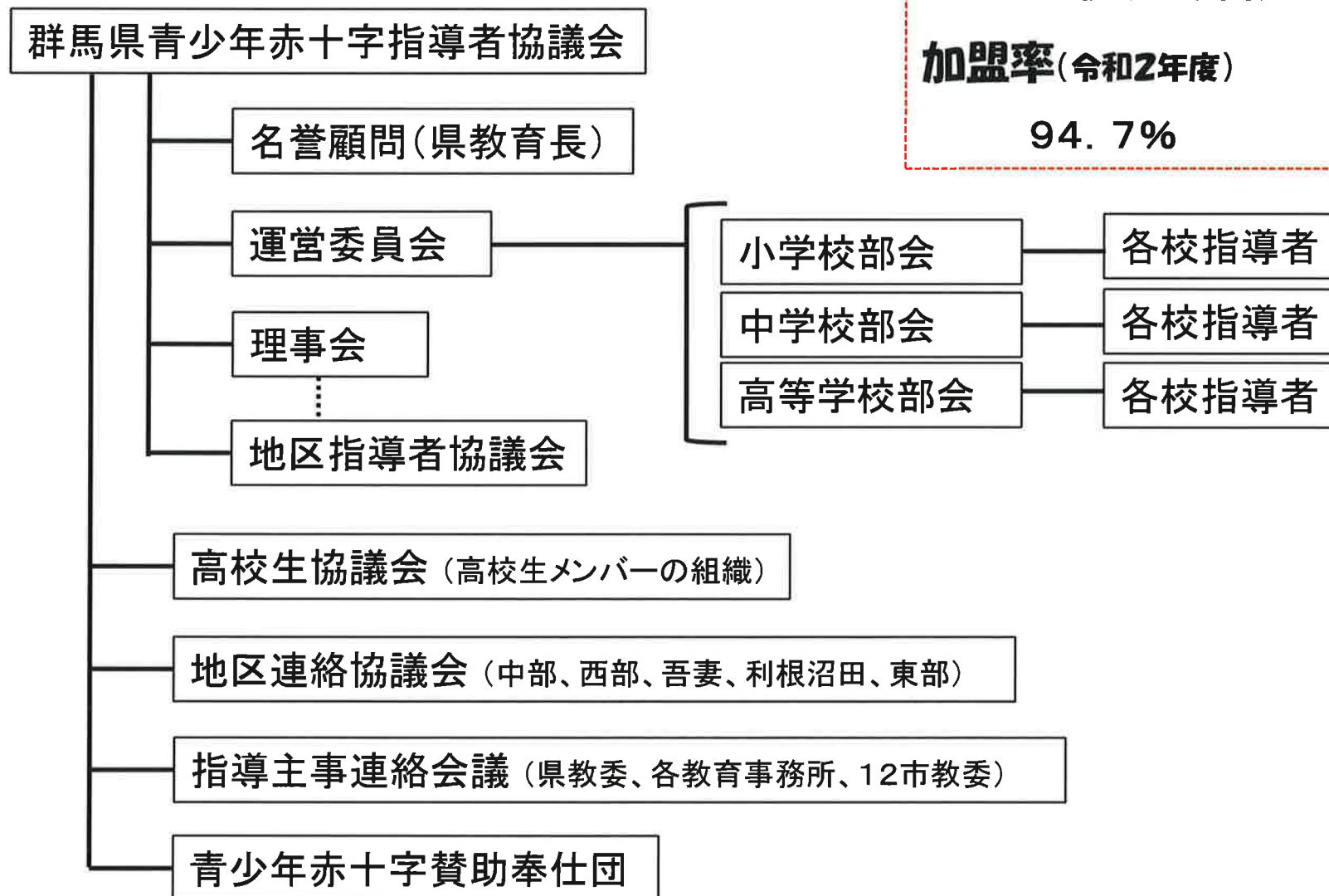
※小中高の公立校は100%加盟

(1) 全国の加盟校数 約1万4,400校

(2) 全国のメンバー数 約340万人

(3) 全国の加盟率 34.9%

群馬県の青少年赤十字組織



加盟校(令和2年度)

556校(小中高)

加盟率(令和2年度)

94.7%

青少年赤十字の目的

日常生活の中での実践活動を通じて、
いのちと健康を大切に、地域社会や
世界のために奉仕し、世界の人びと
との友好親善の精神を育成すること

⇒ 人道(いのちと健康、親切、仲良く
→ 優しさ、思いやり)の実現

「青少年赤十字」の実践目標

健康・安全

- ・いのちと健康を大切にする力を養う
(いのちとけんこう)

奉仕

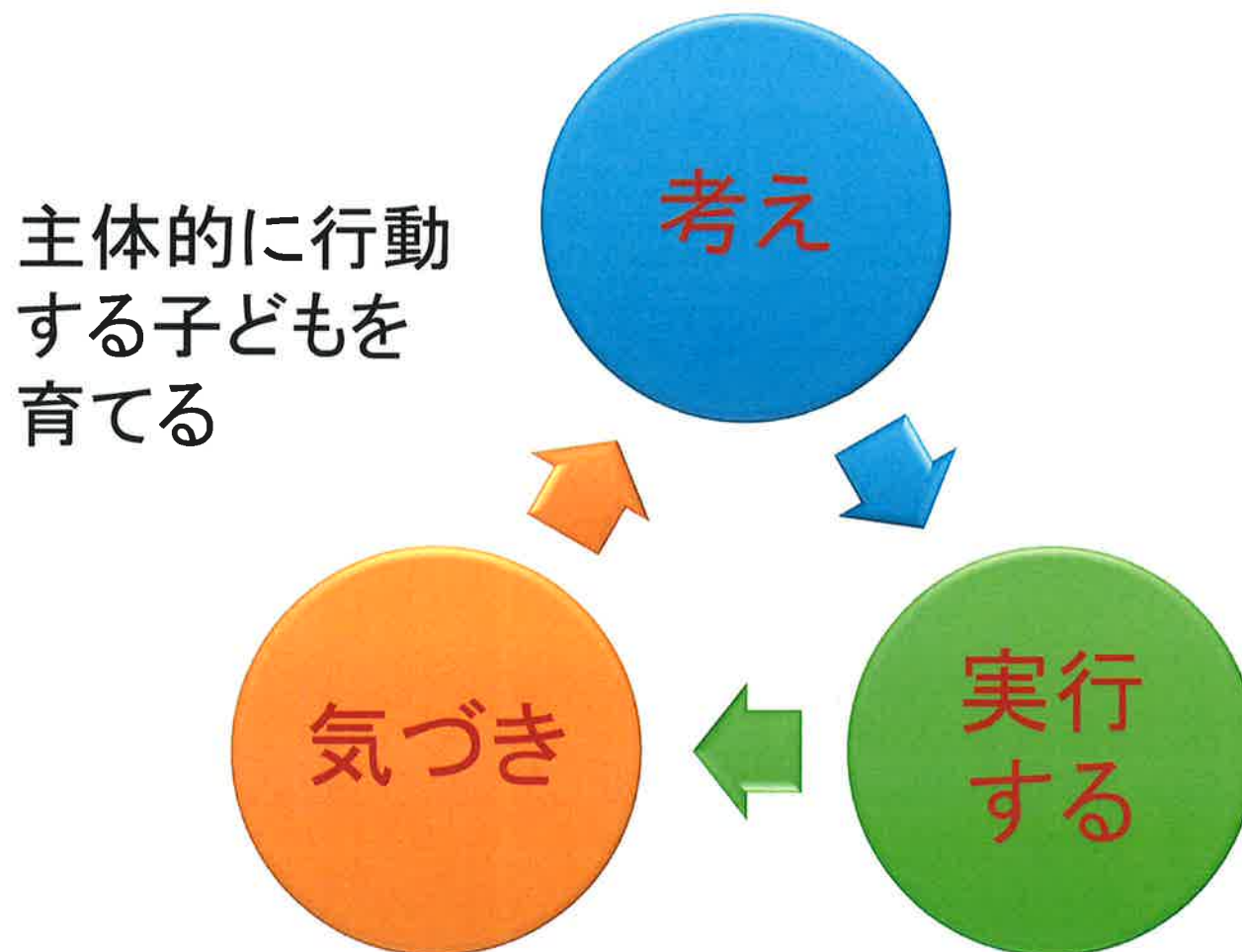
- ・人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、手助けができる力を養う(しんせつ)

国際理解

・親善

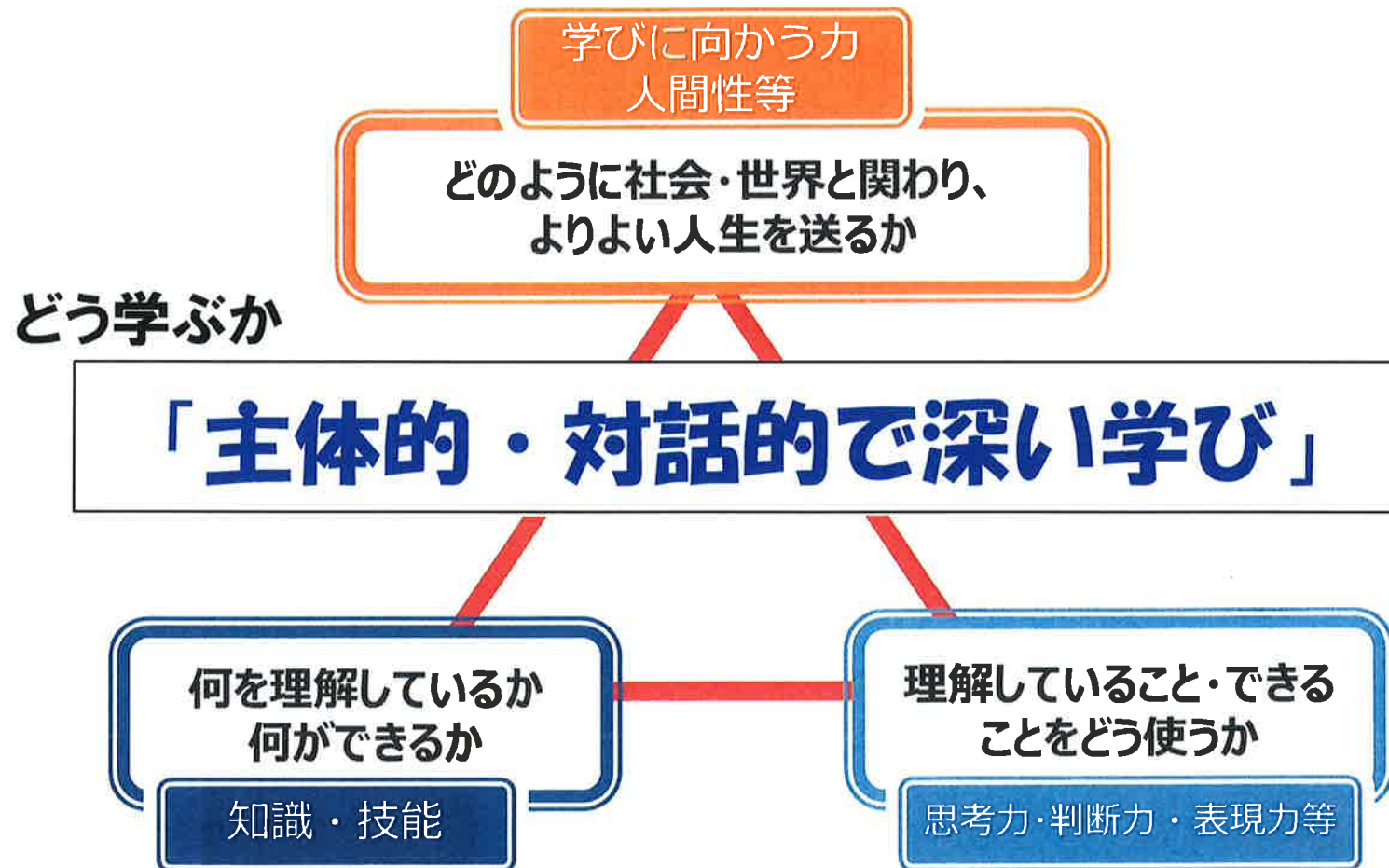
- ・世界が抱える問題に関心を持ち、世界のことを正しく知り、仲よく助け合う精神を養う(なかよく)

「青少年赤十字」の態度目標



「青少年赤十字」と新学習指導要領

育成すべき資質・能力の三つの柱



「青少年赤十字」と新学習指導要領

「生きる力を育む」

- ① 思考力 判断力 表現力の育成
- ② 学習意欲の向上(学びに向かう力・人間性)
- ③ 問題解決的学習 体験的な学習
- ④ 道徳教育、健康安全教育

これらの力を学校生活の全教科・領域・行事などで育てる
(主体的・対話的で深い学び)

→ JRCとめざすところは同じ:

気づき・考え・実行する (主体的に行動する子どもを育てる)

学校教育と青少年赤十字

- ① アクティブ・ラーニング（課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習）の視点

⇒ すでに青少年赤十字が先進的に行う

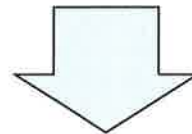
- ② 学校教育と青少年赤十字との関わり

ボランティア教育、人権教育、環境教育、食育、
国際理解教育、情報教育、伝統や文化の教育、
学校安全教育、特別支援教育、キャリア教育 etc.

日ごろの学校生活をJRCのフィルターを活用して
評価することもできます。

「青少年赤十字」の特徴的な手法

- ◆先見（先を見通して行動できる態度）
- ◆ボランティア・サービス（VS）による問題解決
⇒ニーズに気づくこと
- ◆指示のない生活（掲示板の活用）
- ◆待ちの姿勢
- ◆「人道の4つの敵」の克服
（利己心、無関心、認識不足、想像力の欠如）



主体的に行動する子どもの育成

青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち ひろめるぼうさい」

防災教育の達成目標

まもるいのち

自分のいのちを守る力を身につけること。

ひろめるぼうさい

学校、地域、家庭に防災を広めることで、防災意識を高め、周りのいのちを救うこと。いのちの大切さ、思いやる心を育てること。



青少年赤十字防災教育プログラム 「まもるいのち ひろめるぼうさい」

- ① 自然災害から自分の命は自分で守る。
- ② 家庭や学校、地域に対して防災意識を広め高める。
- ③ 思いやり、優しさ、命の大切さを養う。



1コマ 40～50分の展開案（指導展開）が付いているので、使いやすい。 ⇒ **授業で使える教材**

* テキストには、DVD(映像)やCD(Word、一太郎の指導案データ)が添付されており、そのまま活用することも、教員がアレンジして活用することもできる。

* 小学生用(1～3年)、小学生用(4～6年)、中学生・高校生用の3バージョンを収録

日本赤十字社が取り組む社会課題

ビジョン策定の前提となる赤十字の使命

基本原則

赤十字国際会議の決議

日本赤十字社法

ミッションステートメント

社会環境の変化

人口構造の変化
人口の偏在とインフラの老朽化
格差の拡大
気候変動
グローバル化
技術革新
行政・NPO等の動向



日本赤十字社への期待

日赤に期待する活動
日赤に支援してほしい対象
日赤ボランティアに期待する活動
日赤に期待する今後の姿

日本赤十字社が今後10年間で重点的に取り組む社会課題の設定

日本赤十字社が取り組む社会課題

災害や紛争から人々が守られる社会づくり



- 多発する自然災害や紛争、感染症による犠牲者支援
- 災害に強い地域づくり

人々の健康・福祉を支える地域づくり



- 少子高齢化等社会変化を背景とした地域課題の解決
- 超少子高齢社会における医療・福祉サービスの向上
- 人々の健康増進

互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり



- 多様な価値が共生する時代に、人道的な価値が理解され、共有され、共感される社会づくり

日本赤十字社が取り組む事業戦略

戦略3

多様化が進む社会における人道の輪の拡大

— 多様な価値観が共生し、「互いを尊重し、助け合う」社会へ —



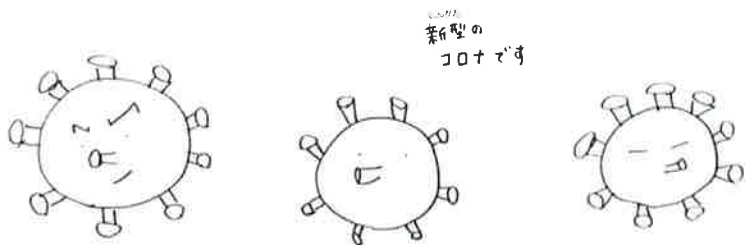
豊かな心をもった青少年の育成強化

- これからの**教育現場のニーズ**に即した「青少年赤十字」活動の再編
- 「不登校」や「いじめ」等の**学校が抱える問題解決の一助**となる人道教育の展開
- **地域社会とのつながり**を体感できる新たな「青少年赤十字」活動の導入

新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！



新型コロナウイルスの
3つの顔を知ろう！
～負のスパイラルを断ち切るために～



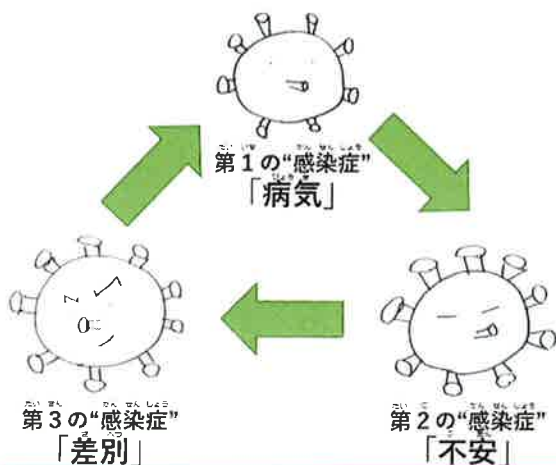
「3つの“感染症”」という顔があることです。実はこのウイルスが怖いのは、知らず知らずのうちに私たちが影響を受けていることをみなさんにご存知ですか？



新型コロナウイルスによる感染が流行しています。

3つの“感染症”はつながっている

ワタシはいつか力をつけていこう...



・新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！は赤十字の基本原則にも通ずるものがあり、いじめ防止等の道徳教育にも活用できます。ぜひ活用してください！

つづきはぜひ実際にご覧ください！

プラン概要

青少年赤十字は令和4年度に創設100年を迎えます。

これを機に、全国各地で関連行事・活動を展開し、青少年赤十字事業の一層の理解促進・普及を目指します。

- 赤十字の精神を再確認しましょう
- 世界の平和と人類の福祉に貢献しましょう
- みんなで100周年のお祝いをしましょう
- 全国の青少年赤十字メンバーと情報を交換しましょう
- 自分たちの活動を活発にしましょう
- 楽しく有益な活動を実施しましょう

ロゴマーク



100年続く青少年赤十字のイメージをデザイン化

スローガン

未来のあなたへ、やさしさを。

未来とは・・・1秒後から10年後の遠い日までを示します
あなたとは・・・You(他人)や I(自分) 幅広く意味します

・100の中にある「青少年赤十字マーク」と「日本赤十字社公式キャラクターハートラちゃん」やピンク色の英文字「JUNIOR RED CROSS 100th ANNIVERSARY」から世界性と活気を感じるデザインです
・100周年を記念し全国のブロックから応募された作品の中から選ばれました

100周年のプラン

あなたの活動を

つなぐ
Connect

あなたの活動を

つづける
Continue

あなたの活動を

つくる
Create

人の命の大切さや思いやり

協力し合うことや支えあうことの 大切さについて

体験しながら「気づき・考え・実行する」

ことができる100周年

青少年赤十字創設100周年の取組

スローガン

未来のあなたへ、やさしさを。

未来… 1秒後～10年後
あなた… You & I

活動の
切り口

つなぐ
connect

つづける
continue

つくる
create

活動メ
ニュー

- ・ のぼり/バナーを掲げる
- ・ バッジの着用
- ・ 旗寄せ書き
- ・ 賛助奉仕団とのコラボ
- ・ メッセージ
「私の考える青少年赤字」

- ・ 実践目標ごとの統一運動
- ・ JRC経験のある日赤職員が講演
- ・ 「創設100周年」を
付け事業を実施
- ・ 活動表彰
- ・ 古いグッズ集め

- ・ 手紙等で優しさを考える
- ・ 周年記念展示会・イベント等の実施
- ・ 日々行うJRC活動の見える化
(SNSの活用)

健康・安全 奉仕 国際理解・親善

気づき、考え、実行する

全国統一運動

次の100年に向けて

※ テーマ・活動の切り口をもとに、群馬県支部でも独自の100周年記念活動を展開予定。

《期間》 令和4年4月～令和4年（2022年）度末まで ※コア期間令和4年5月～12月（予定）

本県の課題

<加盟率上位として誇れる活動内容の充実と向上>

- 防災教育プログラムの活用率向上に向けた取り組み

【令和2年度活用率】群馬県→21.8% 全国→23.0%

※JRC加盟率(群馬94.7%、全国34.9%)を考えると活用率を向上させたい。

- 実践例の共有による活動内容の向上
- 特別活動や道徳教育と紐づけた(意識した)体験学習
- オンラインを活用したJRCの新たな取り組み

※令和2年度は本県では高校生オンライン交流会、高校生リーダー研修会を実施。令和3年度は中止となったリーダーシップ・トレーニング・センターの代替え事業を各校種で予定。

< 指導教員の確保と指導力の向上 >

- JRC主任教員(高校では部活顧問)の異動による連続性の確保
- 指導者講習会の「参加しやすい体制づくり」や「魅力ある内容(授業やHR、特活等に使える講座)」の醸成
- 県TCへのスタッフ参加を推進と、参加したことによる変化を学校内でフィードバックし、活動へどう生かすか
- 地区TC開催で指導者間の交流と、指導者の活躍の場を図る

本県の課題

<指導教員の確保と指導力の向上>

- 防災教育プログラムを活用することで、JRCの視点を活かす指導の醸成
- 県教育委員会をはじめとする行政機関との連携と協力体制の充実

※ 令和2年度は県教育委員会、県内5か所の教育事務所、県内12の市教育委員会を訪問し活動内容の充実の為のヒアリングを実施した。いただいた要望の中で、下記を実施した。

(1)4月と2月に実施している指導主事連絡会議が同様の内容の為、会議の意義の変更(4月は今年度の目標について、2月は振り返り)した方がよい。
→令和3年度から内容を変更した。

(2)教育事務所、教育委員会主催会議への参加

- ①利根教育事務所との連携により令和2年度利根管内生徒指導主事・主任会議に参加
- ②館林市教育委員会との連携により館林市小学校青少年赤十字部会に参加

<その他>

- 校長会でJRCの説明や情報交換の場を設け、管理職への理解促進
- 「作文」「ポスター」コンクールを活用し、JRCを考える機会の提供
- 幼保用の防災教育教材を小中高の児童・生徒にも普及し、小中高生が幼稚園や保育園へ活動の場を広げるなど、地域活動へ発展した防災教育の取り組み

学校全体で取り組めること、
学級の中で取り組めること。

JRC活動は、

色々なところにつながり、潜んでいます。

いざというときに行動できる子どもたちを

育てるため、JRCを有効に活用してください！

